

### 3月の予定

- 2日 体験農園春夏開始式
- 4日 長崎県立大学研修
- 9日 2023年度研修生修了式
- 14日 研修生2名(テケシー、アグス)上京
- 15日 研修生帰国
- 16日 生松台ふれあい市

### 体験農園だより

今年度の秋冬作も昨年に引き続き豊作でした！開始当初はダイコンやキャベツなどが被害を受けていて、収穫できるか不安でしたが、無事にご収穫いただけました。また今年度は空きスペースで白カブやシュンギクを植付したので、皆様にも喜んでいただけました😊3月からのR6年度 春夏作前期でもたくさんご収穫いただけるように努めたいと思います！

2月17日(土)には毎年恒例のボカシづくりを実施しました。ボカシは米ぬかや鶏糞といった有機物を発酵させてつくる有機肥料です。私は今年度の夏に有機栽培について、より専門的な講習を受けたのですが、学んだことを伝えようと熱が入りすぎて、例年よりも細かく説明をしてしまいました😅有機栽培を突き詰めようと思うとそれだけ深いものであること、またオイスカ野菜のおいしさの裏側をご理解いただければと願うばかりです。是非、皆様もオイスカ野菜のおいしさの裏側を覗きにセンターへお越しくださいませ！（飯川）



### ご協力ありがとうございます！ 【2月の寄付品】(敬称略) 紫園来未、新藤徳博、石井伸二

**脇山歓迎会** 2月17日(土) 脇山校区自治協議会様の主催による歓迎迎いが、当センターにて行われました。はじめに自治協議会会長の重松様よりご挨拶いただき、当センター所長の廣瀬よりお礼のご挨拶をさせていただきました。その後、まず2月はじめごろに入所した新研修生とOBを含めて12名が自己紹介をしました。このような場で自己紹介するのは初めてでしたので、少し緊張の面持ちでしたが上手に自己紹介をしていました😊その後、3月に修了する研修生からアクションプランの発表を行いました。当日は男性研修生4名が外部研修および体調不良のため欠席でしたので、5名の研修生から帰国後の目標を発表いたしました。またサプライズで昨年度の研修生アズミンさん(マレーシア)とリーさん(PNG、OB 研修生)とビデオ電話でつなぎ、会場の皆様は久しぶりに顔を観れて嬉しそうにされていました😊 歓談中には新しい研修生から各国の国の紹介をいたしました。まだ日本語が不慣れなので、先輩研修生やスタッフのサポートのもと、なんとか母国について紹介することができました。国の紹介の後にはみんなで楽しくダンスの時間。マレーシアとチベット、ミャンマーの3曲を会場の皆様と踊りました。その後、椅子取りゲームを行い、会場は大盛り上がり😊 研修生も必死に負けまいと頑張っていました。地元の小学生姉妹が1位と2位を独占しました。最後に自治協議会会長の重松様よりプレゼントをいただき、研修生を代表してトウサさん(ミャンマー)がお礼のスピーチを行いました。そして会場を後にし、自治協議会の皆さまがグラウンドにて打ち上げ花火を上げてくださいました。大変きれいで研修生の心の中にも残る花火だったと思います。約1年間、研修生を脇山の住民として迎え入れていただき、また応援していただき、ありがとうございました。これから新しい研修生たちを新しい住民として受け入れていただきます。これからどうぞよろしくお願いいたします😊(飯川)



### 農場の研修風景

今年の2月は、過去にないほど雨が多月でした。そして、この時期としては異常とも言える高温が続くなど、いったい日本の四季はどうなってしまうのだろうか心配になってきますが、今回の長雨は通常だと3月の中旬に降る菜種梅雨ではないかと思われます。季節の変わり目には必ず前線が発生し長い雨がもたらされるのですが、まさに季節が1カ月近く早まっているような気がします。それでもこれからは、寒暖を繰り返しながら春があつという間に過ぎ去っていくのでしょうか、現在オイスカ農園の育苗ハウスでは、夏野菜の種蒔きが始まっています。

暖冬だからと言って、調子に乗って早めに夏野菜の苗を植えたりすると、とんでもない被害に見舞われます。これから夏野菜の植え付け準備をされる方は、決して無理に急いで苗を植えないように気を付けましょう。(豊田)



# まるごと!西日本

2024年3月号



Instagram [@OISCA\\_NTC](#)  
facebook

発行:(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部  
福岡市早良区小笠木 678-1  
TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322  
E-mail: [oisca\\_ntc@oisca.org](mailto:oisca_ntc@oisca.org) 検索 [オイスカ西日本](#)

日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！

**チャリティゴルフコンペ開催** 2月18日(日) 第16回「We Love オイスカゴルフコンペ」が伊都ゴルフ倶楽部で開催されました。当日は穏やかな天候に恵まれ、会員企業を中心に56名の方にご参加をいただきました。参加者の皆様を研修生は玄関でお迎えをさせていただき、ゴルフ終了後には各賞品をはじめオイスカの農産物を全参加者の皆様にお渡しお持ち帰りいただきました。今年のゴルフコンペの栄えある優勝者は宗寿彦様(株式会社ふくや社長室長)でした。おめでとうございます！またチャリティホール収益金は112,000円になり、併せて賞品のご提供を下さいました協賛企業の方々には厚く御礼を申し上げます。次回は海外研修生の発表会も出来ることを期待しています。この度の皆様方のご参加誠にありがとうございました。(満川)



**モンゴル OB・OG 研修生視察団一行来所** オイスカモンゴルのOB・OG研修生4名とその家族や友人合わせて計8名が、西日本研修センターを訪問したいということで、2月11日(日)の夕方から15日(木)までの4日間、センターを拠点として様々な農業関連施設の見学を行いました。2月12日(月)は休日という事もあって、長崎県の原爆資料館や平和公園の見学、昼食には長崎ちゃんぽんを食べてもらい、皆さん大満足の様子でした。そして、午後の時間帯には諫早市にある八江農芸の育種農場を見学させていただきました。

その翌日13日(火)は、東峰村にある農機具屋さんやシタケ栽培をしているところを見学し、その後田主丸に移動して造園屋さんや農業資機材を販売している(株)ハラダさんなどを見学させていただき、モンゴルのOB・OG研修生それぞれの要望に応える形でいろいろな分野に関する見学をしました。

そして最終日の14日(水)には、七山村にあるイチゴやミカン栽培をしている農家さんへの見学と、午後の時間帯にはセンターの近隣にある酪農屋さんの見学をさせてもらい視察は終了となりました。夜には地元の方にご案内して、モンゴルOB・OG活動報告会を開催し、参加者は少なかったですが、彼らOB・OGの活躍がしっかりと伝わる有意義な報告会を開催することが出来ました。

現在、オイスカモンゴルでは、日本政府からの要請で50,000本の植林プロジェクトを手掛けており、そのプロジェクトの中心人物が今回の4名ということで、それぞれ農業経営やオイスカ活動に携わりながら、植林活動にも貢献してくれるものと思われます。これからのオイスカモンゴルの活躍を大いに期待したいと思います。(豊田)



## 日本語のようす①

1月末に研修生10名が来日しました(2名は遅れて2月に来日)。その頃 廊下ですれ違うときの挨拶はジェスチャー付きの「寒いですね～」です。オリエンテーションで研修の決まりや日本のマナー(挨拶、食事の仕方など)を学んだ翌日から日本語クラスが始まりました。今年はAクラスが6名、Bクラスが6名と半々に分かれました。

●**Aクラス**(みんなの日本語8課から)の研修生は、国で勉強した経験がある人たちです。おしゃべりはとてもよくできるけど、文法知識はないカンボジア研修生、文法知識はあるけど、おしゃべりが上手ではないウズベキスタン研修生、国で日本語能力試験N5を受験し合格している声大きいミャンマー研修生、何事にも積極的な久しぶりのフィリピン研修生、控えめにしっかりしている東ティモール研修生、笑顔とコミュカで上達中の紅1点インドネシア研修生。6人の成長が楽しみです。

●**Bクラス**(ひらがなカタカナから)の研修生は、ひらがなカタカナの学習から始まりました。3年越しに来日できた(コロナや国の事情)PNG研修生はオンラインで学習したことを覚えていました。もう1人のPNG研修生は、読み書きに苦戦しています。最年少18歳ペアのインド研修生とモンゴル研修生は、休み時間もお互いに教えあっている様子がほほえましいです。遅れて入った控えめなチベット研修生。さらに遅れて入るフィジー研修生。スタートはAクラスより遅れていますが、彼らの上達も楽しみです。

がんばれ！研修生！ 立石考子



## マレーシア OBOG 調査 KPD/オイスカ青年研修センターでの活動報告②

1月30日(火)~2月7日(水)にKPD/オイスカ青年研修センターにて研修の視察をさせていただきました！KPDは現地の州政府農業食品産業省傘下のサバ農村開発公社の略称です。サバ州ではKPDとオイスカが協働でセンターを運営しています。

同センターでは、16ヶ月間という長い期間、研修を行っています。研修コースには野菜栽培、稲作、養鶏、食品加工、きのこ栽培の5コースがあり、研修生はそのうち一つのコースを専門的に学びます。今年度は55名の研修生が在籍しています。日本国内センターとの違いとして特徴的なのは研修を修了すると、Diplomaと呼ばれる日本でのところの短期大学卒業資格と同等の修了認定証を取得できる点です。研修生の中にはDiploma取得のために研修を受ける研修生もいるようです。

KPDスタッフには訪日OBOGも在籍しており、彼らのうちの一部がサバセンターの指導員を担当しています。西日本OBOGでは3名が在籍。2017年度OBイジャンさん、2020年度OGフィナさん、21年度OBアズミンさんの3名が指導員をしています。イジャンさんは稲作と農業機械の整備を、フィナさんは食品加工でお菓子作りを、アズミンさんは野菜栽培を、それぞれ担当しています。帰国して活躍するOBOGを実際に見ると大変うれしい気持ちになりました😊日本とは環境が全く異なり、農業を営むのは大変だとは思いますが、是非、これらかも現地のために頑張ってもらいたいです。(飯川)



## 2023年度研修生 アクションプランの紹介



学校の先生と子供達に農業を教えたいです。植林活動も一緒にしたいです。  
エムナット(カンボジア)



フィジーセンターでボランティアして、ふるさとでみかんとカバの栽培をしたいです。  
ジョー(フィジー)  
※カバという植物は根っこを粉にして飲むものです。



オイスカ南インドで子供の森計画をしたいです。ファームツーリズムのコーディネーターもしたいです。  
ドゥリシャ(インド)



自分で苗を作って野菜を栽培したいです。ブドウの栽培にも挑戦してみたいです。  
トゥリア(インドネシア)



オイスカサバセンターで働いて、その後自分の畑でニンジン、コマツナ、チンゲンサイなどを栽培したいです。  
キチュ(マレーシア)



南ゴビでブドウやみかんのハウス栽培をしたいです。いろいろな野菜も栽培したいです。  
テケシー(モンゴル)



トウモロコシの栽培をしたいです。マンゴーの木300本を剪定して、収穫を増やしたいです。  
カルマ(チベット)



スイカの栽培、子供の森計画、ケサディップルアックセンターや大学で日本語を教えたいです。  
アグス(東ティモール)



3月14日、15日にセンターを出発して、帰国します。これからも頑張りますので、応援をよろしくお願い致します！

## OB紹介

今回はマレーシアのKPD/オイスカ青年研修センターからイジャンさんを紹介いたします！彼はサバセンターで稲作コースの研修を受けた後、2017年度研修生として来日し、一年間、農業研修を受けました。帰国後はサバセンターの稲作コースの指導員として活躍しています。現在は結婚しており、お子さんがお一人と、近いうちにもうお一人出産予定だそうです！その幸せからか、来日当時と比べると、とてもふくよかになったようです😊今回はそんなイジャンさんを紹介いたします。

帰国後はKPD/オイスカ青年研修センターの稲作コースの指導員として勤務されています。その後、2019年4~6月の約2か月半の間、稲作を営む静岡県のお客様のもとで、田植え機の操作法やメンテナンスを中心に稲作研修を受けられました。現在では教わった操作技術やメンテナンス方法を生かしながら、指導に組み込まれています。センターでは研修生の多くは機械化が難しいため、田植え機の利用と直播の両方で栽培研修を行っています。なかなか鳥や虫による被害や雑草の管理が難しいなか、スタッフ・研修生とともに栽培に励んでいました。

また個人のプロジェクトとして、家族経営で山羊の飼育と魚の養殖、ゴムの栽培を行われています。センターから車で2時間ほど行ったお母様のご実家で行われており、普段の作業は基本的に叔父が行い、週末に月2回ほど帰省して一緒に作業を行います。山羊は食肉用で、ムスリムの方がお祝いの時に購入されるそうです。これからも指導員として続けていくとおっしゃっていたので、今後もイジャンさんの教え子たちが訪日研修で多く来日する事でしょう😊イジャンさんへの応援を今後もよろしく願いいたします！(飯川)

## 基礎研修修了式



訪日時のイジャンさん



イジャンさんのご両親と



トラクターの整備中

## マレーシア OB・OG フォローアップ視察研修報告①

1月20日～30日にかけて、マレーシアを対象とするOB・OGフォローアップ調査視察が実施されました。参加者は、本部職員をはじめ各センターからの代表者合わせて6名で構成され、行程としてはマレーシアの首都クアラルンプールを中心に3日間、そしてサバ州のコタキナバルからテノム研修センターまでの行程を往復で6日間かけて調査してきました。

今回の主な任務は、OB・OG研修生の実態調査をはじめ、OB会の開催や現地政府やカウンターパートなどの関係諸機関との意見交換などが盛り込まれるなど、ハードなスケジュールが組まれました。

OB・OGの実態調査については、クアラルンプール近郊では主に技能実習生OB・OGが活躍する愛知県に本社を置く「愛知ダイハツ」の現地法人が経営する修理工場を併設した販売店への訪問、そして、静岡県浜松市に本社を置く清明エンジニアリング(空調関係の会社)の現地法人を訪問しました。

技能実習生OB・OGが、各部署の責任者として幅広く活躍している様子を拝見し、日本での経験や高い意識が十分に活かされている現場を確認することが出来ました。

また、サバ州での調査については、ラナウという所のキリル村で長年村のリーダーとして活躍しているイグナティウス氏の活動場所での視察がとて印象的でした。

彼は訪日研修後、20haのオイルパーム園を切り開き、その後淡水魚の養殖から土木事業などの経営を基盤として、6haの山での植林や村人のために大きなホールの建設やコテージホテルの建設運営など、村の発展のために大きな貢献をしている様子を拝見し、まさにオイスカが理想とする「ふるさとづくり」を実践していることを実感しました。



OB・OG会の開催については、クアラルンプールの市街地から車で1時間ほど移動したところにマラ公団が運営するMJIIの専門学校があり、そのホールを借りてOB・OGミーティングが行われました。

ホールの中には40名ものOB・OGが私たち一行を歓迎してくれました。

参加者としては、マラ公団から派遣された工業系の委託研修生、技能実習生が多く参加していましたが、はるばるケランタンからも8名のOBご一行も参加してくれて、彼らからもオイスカに対する熱い思いを聞くことが出来ました。長い年月が経過しても、オイスカに対する思いは非常に強く、何かオイスカに貢献したいという思いが伝わってきました。



また、サバ州内での OB・OG 会については、コタキナバルの市街地で1回(参加者23名)とオイスカテノム研修センター内で1回(20 名程度)開催されました。参加者の中にはサバセンターの1期生(1977 年～)の方をはじめとして、80年代の訪日 OB・OG の皆さんも数多くみられ、先輩方のオイスカに対する熱い思いや訪日研修時の思い出を聞くことが出来、大変有意義な会を催すことが出来ました。そして、サバ州の OB 会はすでに積極的に活動を展開しており、様々なオイスカ活動に支援をしている様子を確認することができました。



その他、今回はマラ公団理事長との面会や、サバ州では州の農業大臣やカウンターパートである KPD の所長との面会などを行い、今後のオイスカに対する現地側からの要望や期待などが提案され、今日までのオイスカが進める人材育成に対する評価と更なる期待、そして技能実習生の受入れ拡充への更なる強化、体制の充実の必要性を再認識しました。

今回様々な地域で活躍する OB・OG の現場の様子を拝見し、改めて日本側の認識が不足していることを確認することができました。こちらが想像している以上に彼らの地域に対する貢献度やオイスカに対する意識、そして農業や企業経営を基本としてしっかりと自立運営されている姿がすばらしく、彼らの活躍をもっと国内の会員様に PR しながら、オイスカスタッフとして彼らから学ぶべき点が多々あると感じました。

これからの課題としては、更に OB・OG の実態を調査しながら、彼らの働きを点から線、そして面につなげていき、その力を彼ら母国の発展に結び付けていくために少しでも日本側からサポートしていきたいと考えています。そして、次の展開としてオイスカインターナショナルの参加国すべてにその働きを拡充していくことがこれからの目標ということで、今回の視察がその働きを進めていく大きな一歩として、今後さらに人材育成の活動を強化していきたいと思えます。

